

志木に学び、志木を愛し、志木の未来を考えます



□業務の具体的な取組方針

志木市の魅力を更に高める中心部への機能集約

・都市・自然・歴史文化がバランスよくコンパクトにまとまった志木市、本計画によって市の中央部に魅力的な文化・スポーツの融合した公共サービスの拠点を創り出し志木市の魅力をアップします。



少子化を食い止める市民みんなに愛される施設づくり

・館内全体に快適な居住環境の共用部と居場所を作り、ホール・体育館が魅力的なプログラムを提供することで志木市の住みやすさを向上させ、出生率押し上げるプロジェクトを目指します。

先導的脱炭素コンパクトシティプロジェクトへの取組み

・隣接する志木小学校・いろは遊学館は学社融合の先導的なプロジェクトでありました。そこにホールと体育館機能が加わり連携することで更なる機能集約と効率化、市民交流が促進されます。また、コンパクトな志木市ならではの省CO2対策によってカーボンニュートラルを実現します。

コンパクトシティを活かした脱炭素アクセスを促進する施設づくり

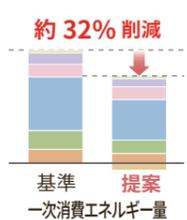
・市全体が自転車移動圏内である市の中心部に立地する利点を活かし、自転車利用及び徒歩でのアクセスが促進される計画とします。施設の3方にエントランスを開き、使いやすい位置に自転車置き場を設置します。

・施設の南北のエントランスをつなぐ主動線となるスポーツモールを設け施設と地域をつなぎます。



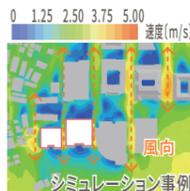
2050年カーボンニュートラルを達成する先導プロジェクト

・志木市の気候風土、ホール・体育館という大空間を持つ建築の特性を活かした自然エネルギー利用、省エネルギーアイテムの採用によって、建物完成時にZEB Orientedを達成、その後の運用方法の改善などによりZEB Readyを達成可能な計画とします。



周辺住宅街への負荷低減：周辺住民から喜ばれる施設へ

・設計時に周辺住宅への日照、風、音などのシミュレーションにより環境負荷低減が可能にし、周辺住民から歓迎される計画を創ります。説明会などではエビデンスに基づいた資料による真摯な説明により、周辺住民から信頼を得られるよう業務を遂行します。



隣接する志木小学校・いろは遊学館との相乗効果

・志木小学校への登下校及びいろは遊学館利用者の動線の安全性に配慮した計画とします。本施設との連携を強化するため、施設間道路の舗装の歩道化や横断歩道の設置を検討します。

・工事中にも安全性が担保される工事車両出入口が可能な施設配置とします。

担い手を育み未来につなぐ市民ワークショップの開催

・発注者の意向の下、市民ワークショップを設計者として主催します。ファシリテーターとして計画系大学教授を招聘し、ファシリテーターの補助者として参加します。運営計画に精通した劇場コンサルの参加も視野に入れ、市民参加者が施設完成後の運営サポーター就任につながるよう計画します。



分析データに基づく実用的な施設・設備仕様の決定支援

・ホール・体育館の設備・仕様決定において弊社実績での実際の利用状況などのデータを下にメンテナンス費用も含めたコストパフォーマンスが判断できる資料を作成し、適切な判断を支援します。特にホールの舞台関係の設備については舞台上での演出内容と設備がリンクするため分かり易い資料で判断を仰ぎます。

最新コスト実績情報に裏付けされた予算計画策定の支援

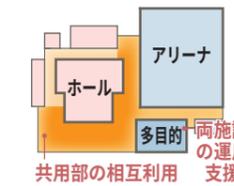
・弊社同種実績のコスト資料を基に変動の激しい鉄骨、木、などの工種については直近のコスト情報を反映し予算計画の策定を支援します。その予算計画を基に仕様などの方針を決定し、設計を進めます。基本設計段階で中間の概算、完了時の概算を行いコストの確認及び調整を行います。

□業務上特に配慮する事項

「志木市公共施設等マネジメント戦略」に沿った施設整備

○複合化のメリットを最大化する共用部(ロビー、ホワイエなど)の相互利用が徹底できる構成

・共用部をホールと体育館の両方から使いやすく利用者の通過が多い主動線に沿った位置に設けます。効率の良い共用部配置により更なる面積削減も可能になります。



交流・賑わいに相乗効果が起こる構成

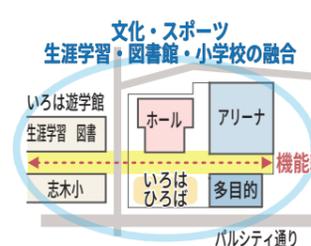
・ホールと体育館それぞれの活動が同一の共用部から見えるようにすることで、新たな出会いや興味が起こり交流や賑わいを促進します。



○本計画ならではの更なる複合メリットの追及

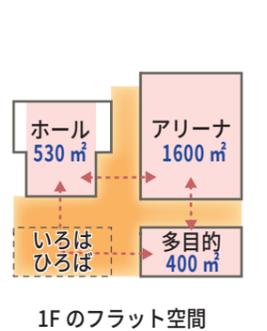
志木小学校・いろは遊学館との連携：市中心部の文化スポーツ拠点

・隣接する志木小学校・いろは遊学館・いろは遊学図書館との連携し、文化・スポーツ・生涯学習・図書館・小学校機能が融合した市の拠点施設とします。西エントランスを志木小学校ガラスルーフに向けて設け、内部の機能軸によってホールと体育館をつなぎます。



フラット化が推進する施設の重ね使い

・重ね使い・多目的利用を徹底するため、固定の設備を極力減らしフラットな床を最大化します。

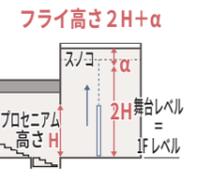


・ホールの客席の可動席・迫採用による客席から舞台までのフルフラット化、体育館の可動客席によるフラット化など重ね使いのエリアを広げ、複合化による面積減を上回る利用可能な床面積を実現します。

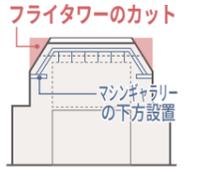
□建設に対する課題設定と解決方法

課題1. 「田子山富士塚から富士山への眺望に影響する市民会館舞台上部のフライタワー高さを如何に抑えるか」

・フライタワーの高さは舞台の間口高さであるプロセニウム高さとその高さに対して吊り物バトンにぶら下げた背景幕などを一気に上部フライに飛ばすか否かで決まります。既存館と同等の機能を維持しつつ、客席前部をワゴン式可動客席+迫とすることで舞台レベルを1m下げ、フライタワーを1m低くすることが可能になります。

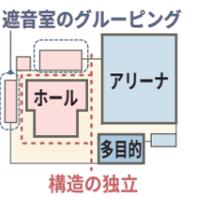


・フライタワーの幅は主舞台上部の吊り物とそれを巻き上げるマシンギャラリーで決まります。巻き上げるワイヤーを滑車を介して下方に送り、マシンギャラリーの位置を下げることで、フライタワー上部の両サイドを斜めにカットできます。



課題2. 「静粛性が要求されるホール、リハーサル室、スタジオ諸室の防音仕様のコストを如何に抑えるか」

・音楽演奏に利用する諸室はNC20~25などの静粛性が求められます。それぞれの室が同じRCの躯体で連続する場合、躯体伝播音をカットするため遮音仕様が高価になります。本施設では遮音が要求される室をグルーピングし、それぞれ独立した構造とすることで遮音仕様のコストを低減します。



課題3. 「近接する住宅地に対するプライバシー保護、騒音対策、夜の光漏れ対策、工事中の振動騒音・安全対策」

・建築に対し敷地が狭いため隣接する住宅地から十分な隔離を取ることができません。住宅との敷地境界には緩衝帯としての植栽のほか、外壁の開口面積を抑えるなどし、視線のカット、騒音対策、光漏れ対策などを施します。工事時の影響が出ないように、山留などの地下工事と敷地境界の隔離を十分に確保します。



課題4. 「狭い敷地での施工を安全かつ周辺に騒音など負荷を掛けずに円滑に行えるか」

・志木小学校の登下校・いろは遊学館の利用者の入退館に影響が出ないように、工事車両の出入口を西側には設けない計画とします。南北の道路に面してオープンスペースを設け、工事車両の出入り及び工事ヤードを南北に取れるよう計画します。



課題5. 「地階を含めたホール・体育館の工事費を想定工事費内に納められるか」

・一般車両の出入口をパルシティ通りに設ける条件下では駐車場の配置が地下又は1階ピロティとなり、周辺住宅街への圧迫感低減を考慮すると駐車場の地下階配置は避けられないと考えます。駐車場以外の地下階配置を柔剣道場のみとし、階高も合わせず機能的に必要な階高とし、スロープでレベル差を解消します。

・他の施設は3階までにコンパクトに配置することでコスト削減し、全体を予算に納めます。

3階までのコンパクトな配置	
動線	弓道 ▼3F
スタジオ	ホール トレーニング 卓球 ▼2F
	多目的ルーム ▼1F
	駐車場 柔・剣道場 ▼B1F
スロープでのレベル差解消	
現段階での概算工事費(税込み)	
建設本体工事費	約55.0億
	ホール 約15.0億
	体育館 約34.0億
	駐車場 約6.0億
解体工事費	約2.5億
合計	約57.5億